

令和7年度 全国納税貯蓄組合連合会会長賞

見えないところで支える力、支える人

天理中学校 2年 楠戸 理誠

ぼくはどちらかと言えば内気な性格で、クラスでも大きな声で意見を言ったり、みんなの前で発表したりするのは特に苦手です。部活でも目立つプレーより、シュートにつながるアシストをしたり相手の攻めやシュートをおさえるディフェンスをしたりする方が好きです。そんな自分と「税」というものは、少しだけ似ているようにも思います。

税金はどんなことに使われているのかを調べてみたら、税金で学校の教科書を配っていました。また道路がきれいに整備されていることもわかりました。ぼくの家の前の道も、前にデコボコがあり車やバイクが通るたびに、ガタンとなったり自転車はハンドルを取られて危険でしたが、町内の自治会長さんが言ってくれて、とてもきれいに舗装されました。

ぼくたちが毎日何気なく使っているものの中には税によって支えられているものがたくさんあることがわかりました。ぼくの家の前の道もそのひとつです。

それからぼくは読書が好きで、図書館はとてもいい場所だと思います。その図書館も税金で運営されていると知り、ありがたいことだと感じました。静かな空間で集中して読書できる図書館を、これからも積極的に活用したいです。

税は普段、目にはみえません。だけどなくなったら困るものが多いです。道路がデコボコでも直らない、学校へ行っても教科書がない、本を読みたくても高価な本を買わなければ読むことができないでは、安心して暮らせないし不便だと思います。知らないところで税はぼくたちの生活を守ってくれているのです。そんな税の姿は、ぼくが将来なりたい人の姿によく似ています。決して目立たない、でも誰かを陰で支えられるかっこいい存在です。部活で仲間を助けるように、社会で誰かの助けになり、静かに人を支える税、ぼくはそんな大人になりたいです。

これから大人になって働くようになれば、ぼくは税金を納める側になると思います。その時には、「自分の納めた税金が誰かの役に立っている」と考え、自信をもって税金を納めたいです。目立たなくても確かに人を助けています。それはまるで、ぼくが理想とする目立つことより目立たないところで人の役に立つ人間像に似ている気がします。やはりその姿はかっこいい。だからぼくは、これからも変わらず自信をもって陰で人を支えられる大人を目指します。